

スポーツ・武道実践科学系

氏名 **はま だ はつ ゆき** 教授



主な研究テーマ

- 柔道における競技力向上論・指導法の構築、柔道療法の研究・
- 武道国際化における課題と対策、体と健康

平成26年度の研究内容とその成果

柔道国際化における課題と対策及び競技力向上・普及発展、指導法の構築に関する研究を行いました。国内および海外からの柔道家を受け入れ、諸外国にて柔道指導に関する講義など国際交流を行いました。また、招聘された国々において日本の伝統的な基本技術(Classic Judo)、講道館柔道「形」を中心に、応用技術までの指導を行いました。

体と健康、知的障害者を対象にした「柔道療法」に関する学会発表等を実施し柔道を通して社会貢献活動を行いました。前回り受身習得用教材「初転君柔道衣」に関する研究が「科学研究費助成事業」に採択され、科学的見地から得たデータを「日本武道学会」で発表しました。さらに武道必修化に向けた指導者講習会、わかりやすい柔道授業を行うための教材作成も試みました(初転君柔道衣およびシート・トライアングルセオリーシートの改善)。

1. 柔道指導・研究調査活動

1) 中学校柔道実技指導者研修会にて講師、スポーツひのまるキッズ九州小学生柔

道大会の講師、大隅地区柔道会理事として活動した。

- 2) フランス・モンペリエ(7月)、マルセイユ柔道連盟(10月)に招聘され、フランスにて理論と実技指導を行いました。2015年3月には約1か月間、フランス・トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学にて、日本文化について講義を行いました。また、マルセイユ柔道クラブ(11名)を本学を拠点に受け入れ、強化練習、地元クラブ柔道場と稽古、大隅地区柔道会と親善試合、学長、鹿屋市長を表敬訪問し、市民参加型の柔道を通じた国際交流を行いました。
- 3) 在インドネシア日本国大使館・ASEAN日本代表部が主催する平成26年天皇陛下誕生日祝賀会の文化事業として、講道館柔道「古式の形」の演武と実技指導を実施し、PJSI DKI Jakarta(ジャカルタ柔道連盟)から、柔道指導に対して表彰されました。
- 4) 大隅ブロック交流会にて「武道の国際化」をテーマに講演を行いました。
- 5) 日本武道学会理事、日本武道一般社団

法人障害者武道協会一般理事として活動しました。

- 6) 鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターアドバイザー委員会委員、肝属地区柔道会・国際交流担当部長、強化指導部長として活動しました。
- 7) 岡山理科大学と共同研究を図り、健康に関する研究成果を国際雑誌に1編掲載しました。
- 8) 「第4回松山城東ライオンズクラブ柔道錬成大会－濱田初幸記念大会－」を開催、中学生260名が参加し青少年の健全育成に資する活動を行いました。

2. 研究活動

- (1) 科学研究費補助金の獲得
「前回り受身習得用柔道衣・「初転君」の科学的エビデンスに関する研究」
- (2) 学術論文
 - 1) 小・中学生の柔道選手を対象に実施した脳震盪に関するアンケート調査－指導者の調査結果と比較して－、講道館柔道科学研究紀要、15, 95－102, 2015.
 - 2) インドネシアで開催された天皇陛下誕生日祝賀会における「柔道の形」演武及び実技指導報告、鹿屋体育大学紀要、(In Press)
 - 3) Glycosylation of Quercetin with Cultured Plant Cells and Cyclodextrin Glucanotransferase, Natural Product Communications, 9(5)647-648, 2014.

(3) その他

- 1) Jinki, L'esprit du JUDO, No53, 58-65, 2014.
- 2) 30e STAGE DE JUDO DE MONTPELLIER (DVD), Stage Judo, 2014.

(4) 学会発表

- 1) A study of the Jujutsu-waza (without connecting to the opponent) ;Derived from the makimono of Yoshin-ryu-jujutsu, 3rd World Science Congress of Combat Sports and Martial Arts IMACSSS, 2014.
- 2) 柔道受身直後の頭部の動きについて、日本武道学会第47回大会、日本武道学会第47回大会、2014.
- 3) 初転君を用いた指導が中学生柔道初心者の前回り受身に及ぼす即時的効果、日本武道学会第47回大会、2014.
- 4) 柔道全日本選手権と武道必修化、日本武道学会第47回大会、2014.

これからの研究の展望

柔道初心者に対して、「安全でわかりやすい」柔道指導方法や高度な競技力の向上に繋がる「効果的トレーニング、練習方法」を独自の理論で構築、柔道の普及発展に貢献していかなければならないと考えています。特に科学研究費補助金を獲得した、前回り受身学習用柔道衣「初転君」の効能を科学的に検証していきます。(初転君及び初転君シート・トライアングルシートの改善)。

競技者あるいは世界選手権・オリンピックコーチとしての経験から学んだ「勝つ」、また「強くなる」といった観点から国際レベルで戦うことができる選手育成を目指した強化のための実践的研究も行っています。

地域の柔道会（肝属地区柔道会）と連携を図り、少年を対象にした「級制度」の審査システム、内容に関する共同研究を実施しています。

柔道・武道の発展を鑑み、国際性を身につけたグローバル化社会に貢献し得る人材養成を目指し、国際交流による外国チーム、選手の受け入れや海外派遣を実施していきます。

さらに、生涯学習の視点から「講道館柔道の形」、「知的障害者の柔道指導方法」「中高一貫教育における武道の推進」に関する研究も着手検討中です。特に、共同研究を進めている「仲野式柔道療法」は、テレビ等で大々的に報道されたことから、知的障害者の自立支援に向けて、科学的データに基づいた効果の検証が求められています。

健康に関する研究の一環として、スポーツ飲料に含まれている成分の代謝研究から「有効成分の解明」や「骨強度に関する研究」など生理学的研究も学外機関との連携を図りながら究明していきます。高等教育機関に携わる一員として教育、研究分野における一層の推進及び国際貢献・社会貢献活動に尽力していかなければならないと考えています。



柔道フェアinジャカルタでの技術指導